

岡山県感染症週報 2018年 第10週 (3月5日～3月11日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

【お知らせ】 次週、2018年第11週(3/12～3/18)の感染症週報は、3月26日(月)にホームページへ掲載いたします。

◆2018年 第10週 (3/5～3/11) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第8週 5類感染症 アメーバ赤痢 1名(60代 男)
梅毒 1名(50代 男)
- 第9週 2類感染症 結核 1名(60代 男)
5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(80代 男)
梅毒 1名(20代 男)
百日咳 1名(70代 女)
- 第10週 2類感染症 結核 3名(幼児 女 2名、40代 女 1名)
5類感染症 アメーバ赤痢 1名(40代 男)
侵襲性髄膜炎菌感染症 1名(70代 女)
侵襲性肺炎球菌感染症 1名(40代 女)
百日咳 2名(50代 女 1名、80代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で1,165名(定点あたり21.60 → 13.87人)の報告があり、前週より減少しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で124名(定点あたり2.24 → 2.30人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 感染性胃腸炎は、県全体で390名(定点あたり7.15 → 7.22人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第11週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が13施設でありました。(3月12日～3月15日)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で1,165名(定点あたり21.60 → 13.87人)の報告があり、前週より減少しました。第7週(2/12～2/18)以降患者数は減少していますが、依然として多くの患者が報告されており、県内全域の流行は継続しています。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令中であり、ひきつづき広く注意を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中!](#)』をご覧ください。
2. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で124名(定点あたり2.24 → 2.30人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市(4.36人)、岡山市(3.21人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で390名(定点あたり7.15 → 7.22人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域(11.30人)、備北地域(9.25人)、真庭地域・美作地域(各9.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

小学校入学前に、麻しん・風しんの予防接種を!

* 麻しん・風しんの定期予防接種(第2期)の接種期間は、
小学校入学前の1年間(4月1日～3月31日)となっています。

平成30年4月から小学校に入学されるお子さんが、まだ接種を済ませていない場合は、積極的な接種をご検討ください。

接種対象者：平成23年4月2日～平成24年4月1日生まれの方

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		★

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

春休みに海外へ渡航される方へ

春休みに海外へ渡航される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

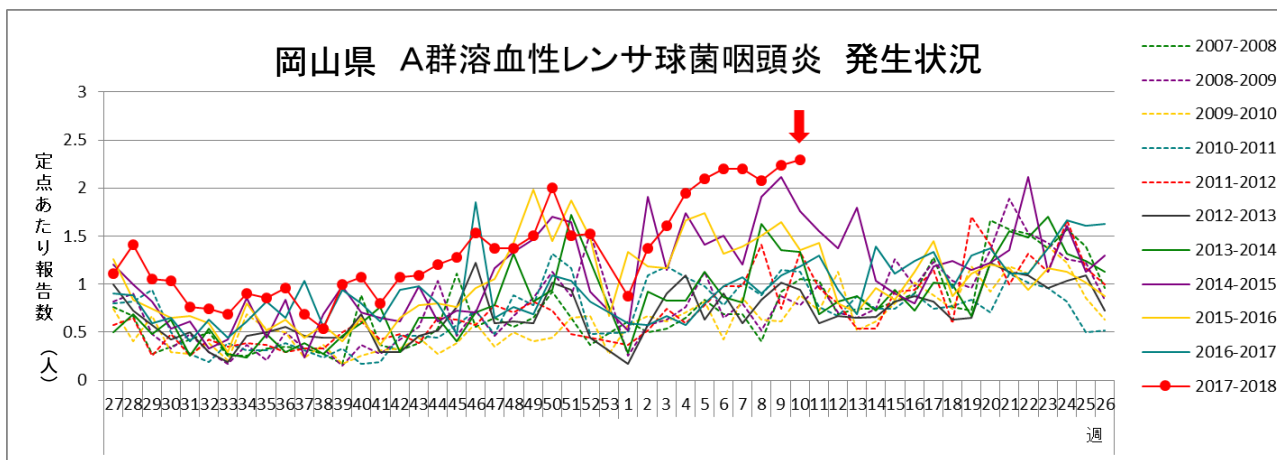
- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

[春休みに海外へ渡航される皆さまへ！](#)（厚生労働省検疫所）

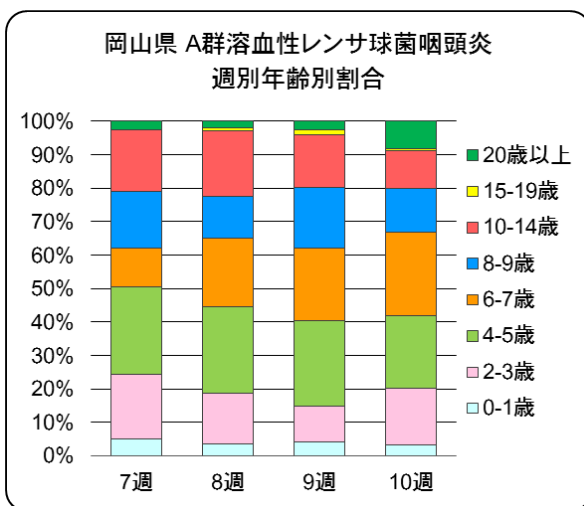
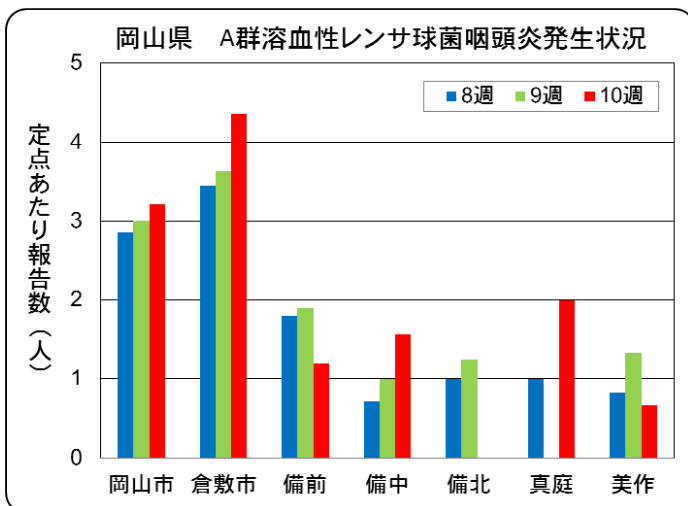
今週の注目感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

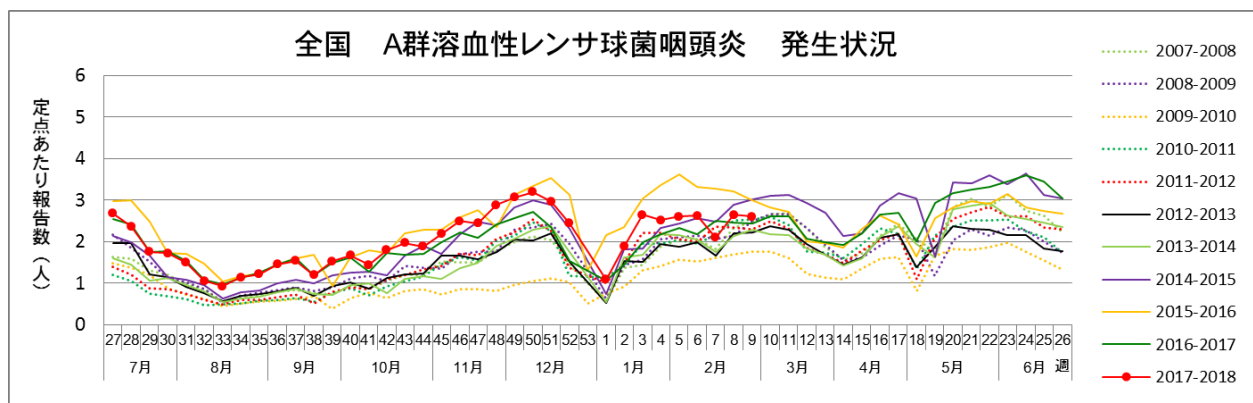


※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

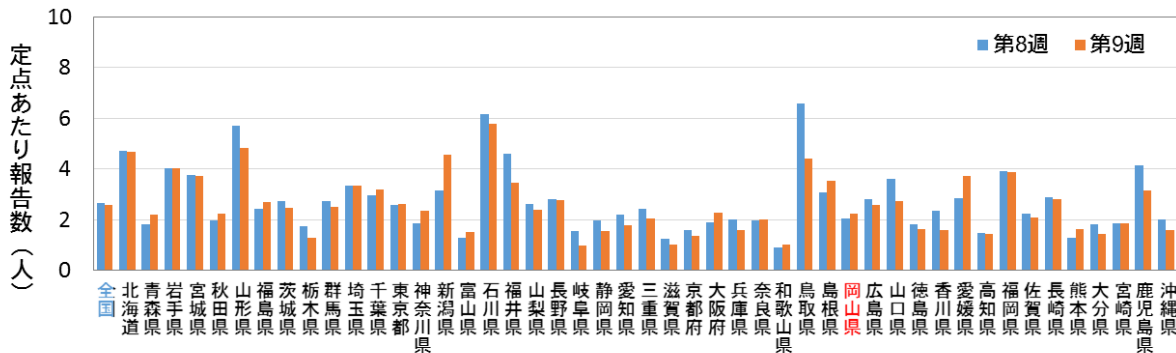


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で124名（定点あたり2.24 → 2.30人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市（4.36人）、岡山市（3.21人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域を除く全ての地域で患者が報告されています。第10周年齢別割合では、10歳未満の小児の割合が全体の80%を占めており、2-3歳、6-7歳、20歳以上で前週より増加しています。

【全国の発生状況】



2018年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



全国の第9週（2/26～3/4）の発生状況は、定点あたり報告数が2.60人であり、前週（2.65人）より減少しました。都道府県別では、石川県（5.79人）、山形県（4.83人）、北海道（4.68人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2018年 第9週（国立感染症研究所）](#)

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A群レンサ球菌による上気道感染症で、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認されます。

【症状】

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後12～24時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも10日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2018年 第10週 (3月5日～3月11日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

【お知らせ】

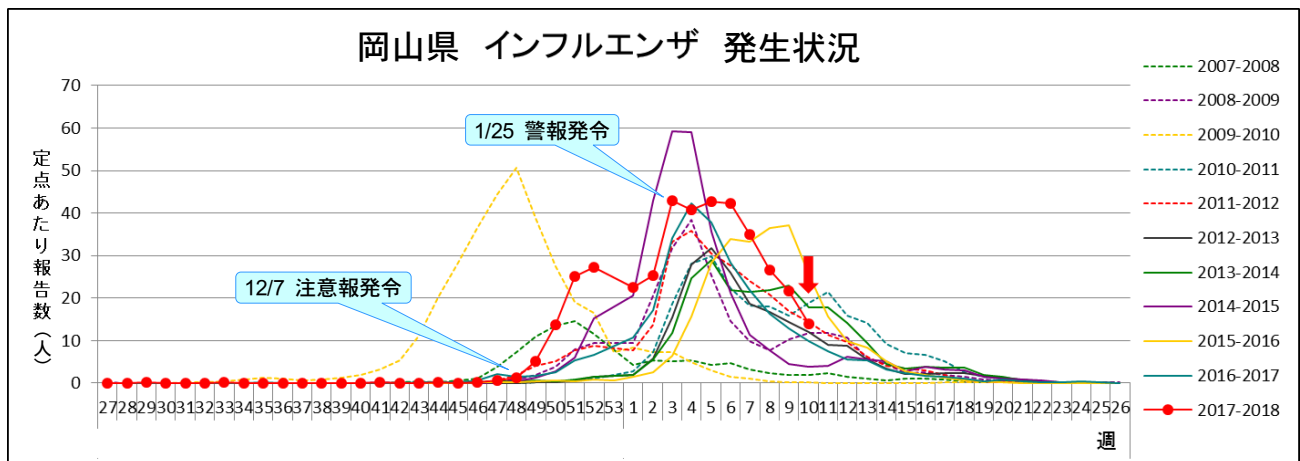
次週、2018年第11週(3/12～3/18)のインフルエンザ週報は、3月26日(月)にホームページへ掲載いたします。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で1,165名(定点あたり13.87人)の報告がありました。(84定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が29施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者15名の報告がありました。

【第11週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が13施設でありました。(3月12日～3月15日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で1,165名(定点あたり21.60 → 13.87人)の報告があり、前週より減少しました。第7週(2/12～2/18)以降患者数は減少していますが、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令中であり、ひきつづき広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(20.38人)、美作地域(17.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全ての地域で患者の減少がみられましたが、依然として県内全域で大きな流行が継続しています。

第10週の学校等の臨時休業は、29施設から報告がありました。前週(41施設)より減少したものの、第11週(3/12～)速報でも、すでに臨時休業をしている施設がありますので、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校などを中心とした集団の中での感染に注意してください。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

**◆インフルエンザは、まだまだ流行しています。
ひきつづき感染予防に努めましょう。**

【予 防】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【かかったかな? という時には】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- * 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

1. 地域別発生状況
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,165	▲	備 中	患者数	155	▲
	定点あたり	13.87			定点あたり	12.92	
岡山市	患者数	246	▲	備 北	患者数	62	▲
	定点あたり	11.18			定点あたり	10.33	
倉敷市	患者数	326	▲	真 庭	患者数	37	▲
	定点あたり	20.38			定点あたり	12.33	
備 前	患者数	169	▲	美 作	患者数	170	▲
	定点あたり	11.27			定点あたり	17.00	

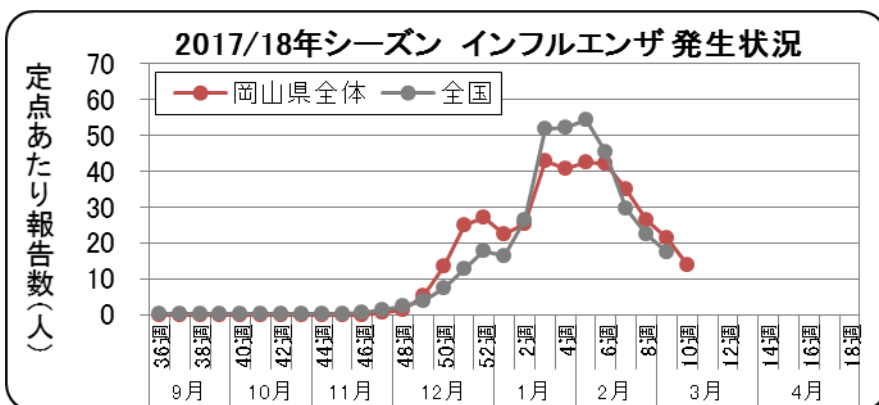
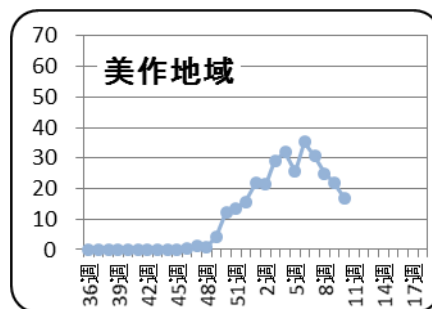
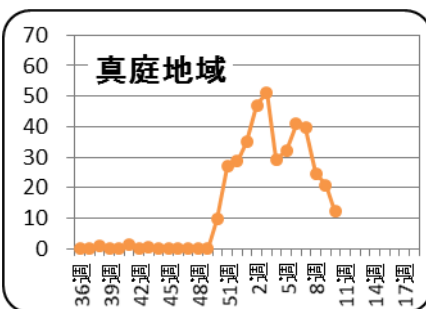
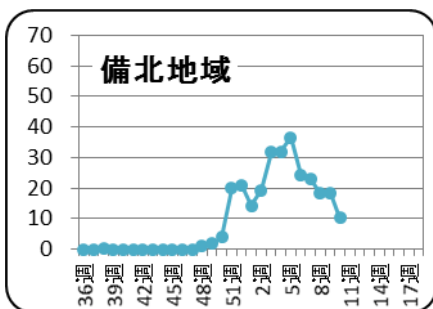
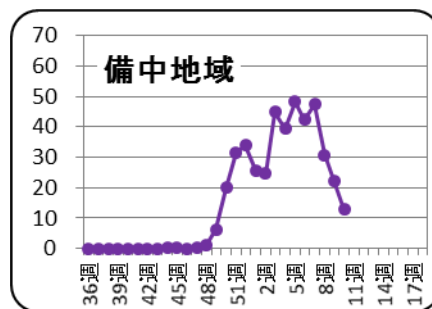
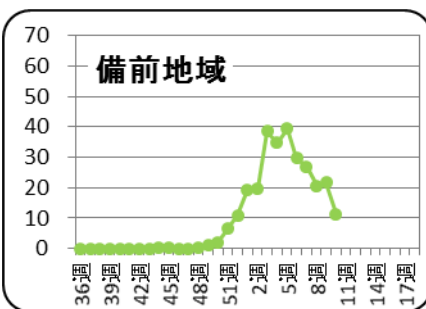
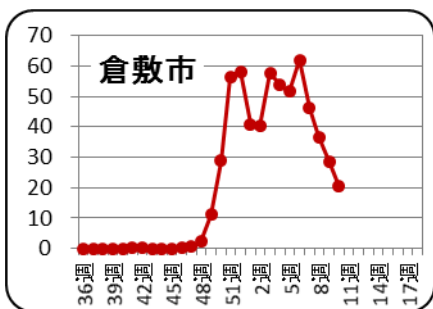
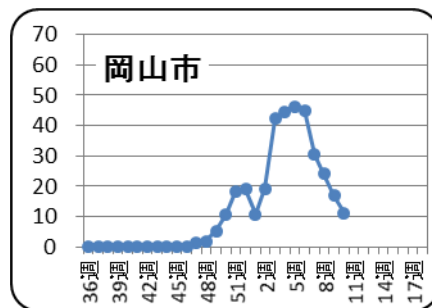
【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 →：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

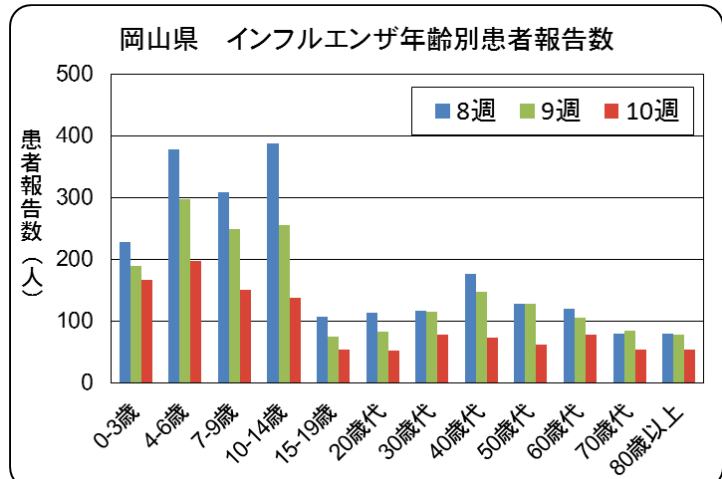
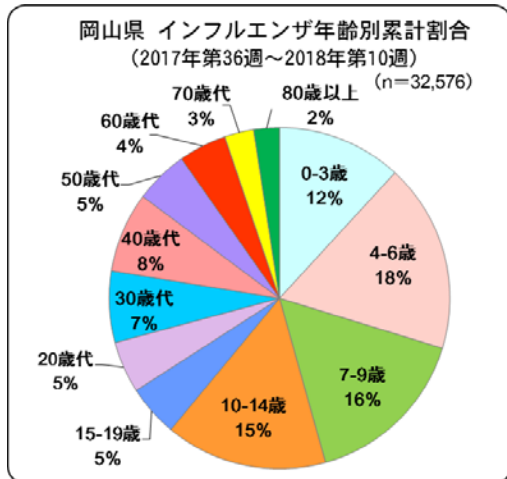


全国集計第9週（2/26～3/4）速報値によると、全国の定点あたり報告数は17.42人となり、前週（22.64人）より減少しました。都道府県別では、北海道（27.19人）、富山県（25.56人）、秋田県（25.48人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、4県で前週の報告数よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について](#)
 （厚生労働省）

2. 年齢別発生状況

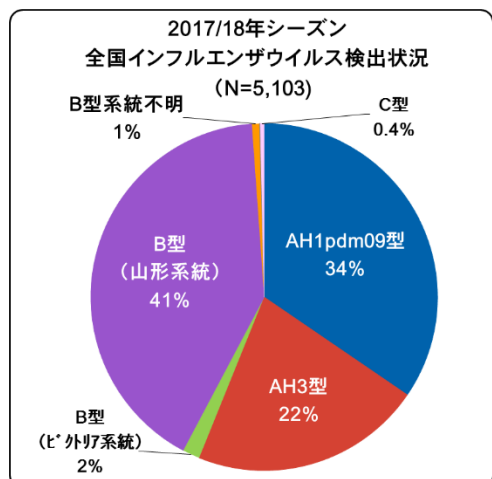
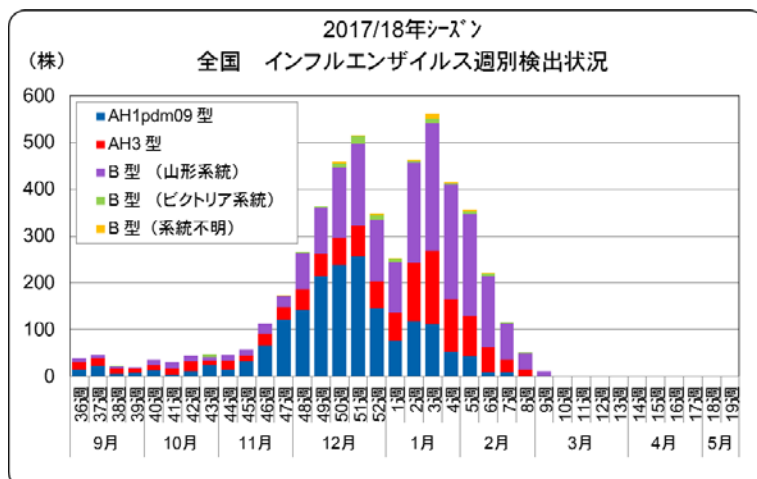
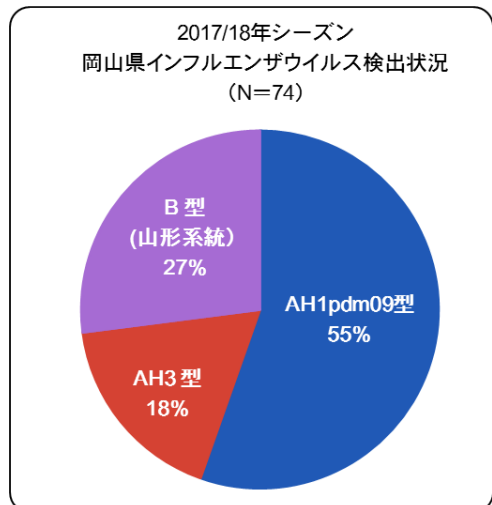
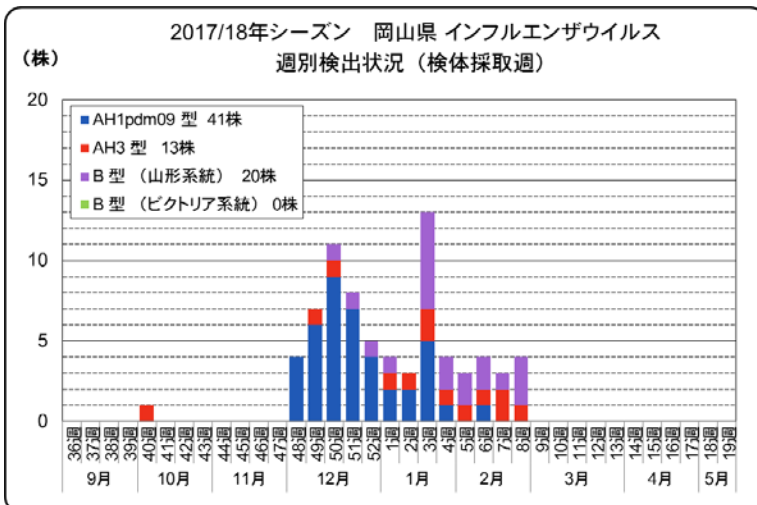
今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 18%、7-9歳 16%、10-14歳 15%の順で高くなっています。週別の患者報告数を見ると、全ての年齢層で患者が減少しています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第10週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは74株で、その内訳は、AH1pdm09型 41株(55%)、AH3型 13株(18%)、B型(山形系統) 20株(27%)となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 34%、AH3型 22%、B型 44%〔山形系統 41%・ビクトリア系統 2%・系統不明 1%〕となっています。今シーズン初めから多数検出されていたAH1pdm09型は、第52週(12/25～12/31)以降減少傾向にあります。(3月9日現在)

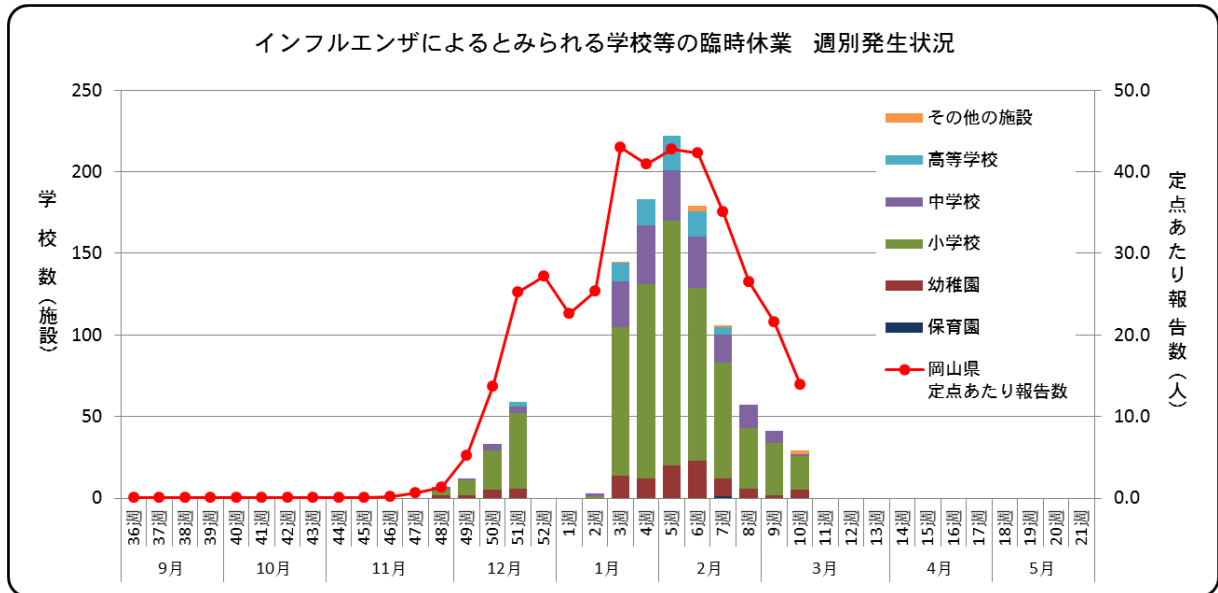


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました。

【第 10 週 臨時休業施設数】

▽岡山市	5	▽津山市	5	▽倉敷市	4	▽笠岡市	2	▽新見市	2
▽鏡野町	2	▽玉野市	1	▽総社市	1	▽備前市	1	▽瀬戸内市	1
▽赤磐市	1	▽真庭市	1	▽和気町	1	▽西粟倉村	1	▽美咲町	1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	282	15344	212	12242	29	1076	2	19	17	248	10	809	H29.11.27
岡山市	55	5959	45	4591	5	386	0	2	1	39	4	345	H29.11.27
倉敷市	61	3432	39	2826	4	228	0	2	1	24	3	202	H29.11.27
備前地域	31	1569	28	1360	5	138	0	3	4	57	1	78	H29.12.13
備中地域	21	2248	20	1840	3	172	0	2	2	46	1	124	H29.12.5
備北地域	14	357	13	276	2	30	—	—	2	14	0	16	H29.12.4
真庭地域	5	270	4	227	1	24	1	2	0	16	0	6	H29.12.18
美作地域	95	1509	63	1122	9	98	1	8	7	52	1	38	H29.12.4

2) 臨時休業施設数の内訳

第 10 週 : 29 施設

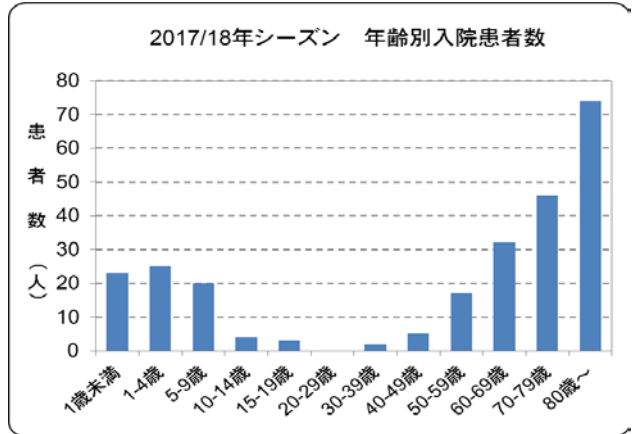
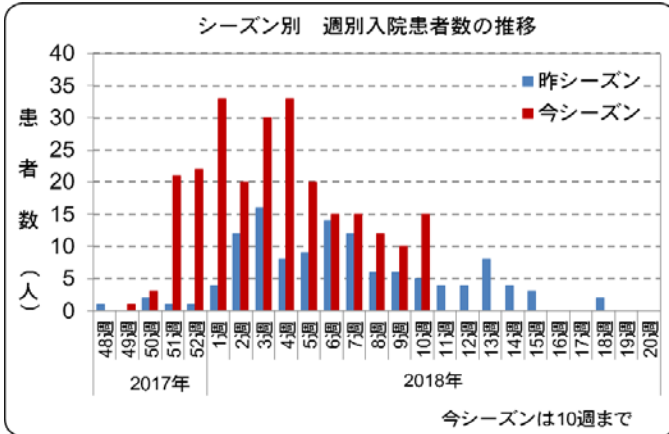
累計 : 1076 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	5	108	21	710	1	178	0	72	2	7

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、15 名（1-4 歳 1 名、10-14 歳 1 名、50-59 歳 1 名、60-69 歳 1 名、70-79 歳 3 名、80 歳以上 8 名）の報告があり、前週より増加しました。今シーズンの入院患者は、昨シーズンよりも多い状況です。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 10 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1		1					1	1	3	8	15
ICU 入室 *											1		1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *				1								3	4
頭部 MRI 検査(予定含) *											1		1
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず		1							1	1	1	5	9

* 重複あり

【2017 年 9 月 4 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	23	25	20	4	3		2	5	17	32	46	74	251
ICU 入室 *		1							1	3	9	3	17
人工呼吸器の利用 *												1	1
頭部 CT 検査(予定含) *	1	3	2	2			1			5	4	15	33
頭部 MRI 検査(予定含) *	1	4	5	1			1			2	1	3	18
脳波検査 (予定含) *		6	1										7
いずれにも該当せず	21	16	13	2	3		1	5	16	25	33	57	192

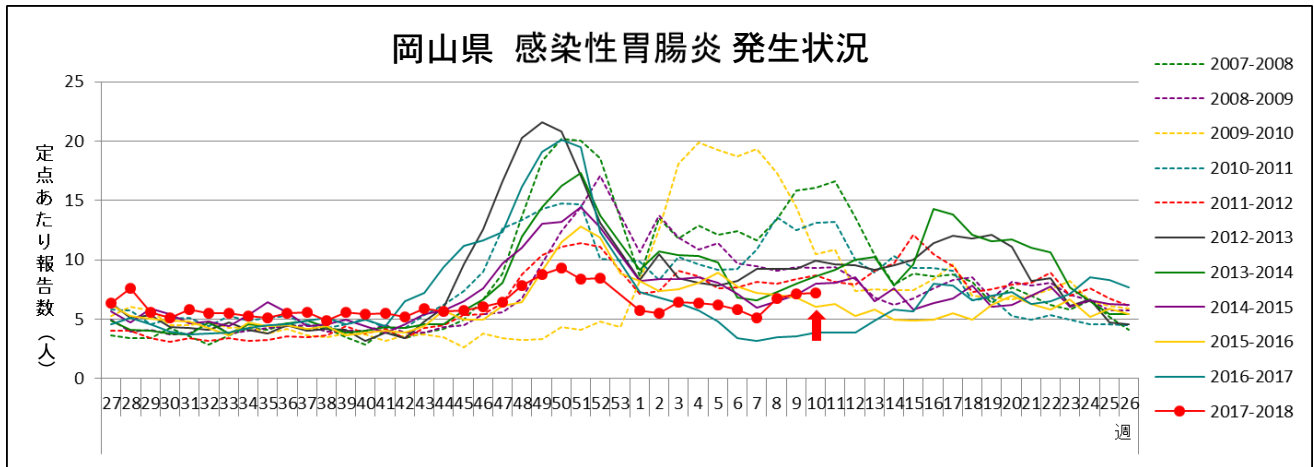
* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2018年 第10週 (3月5日～3月11日)

【お知らせ】 次週、2018年第11週(3/12～3/18)の感染性胃腸炎週報は、3月26日(月)にホームページへ掲載いたします。

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で390名(定点あたり7.22人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

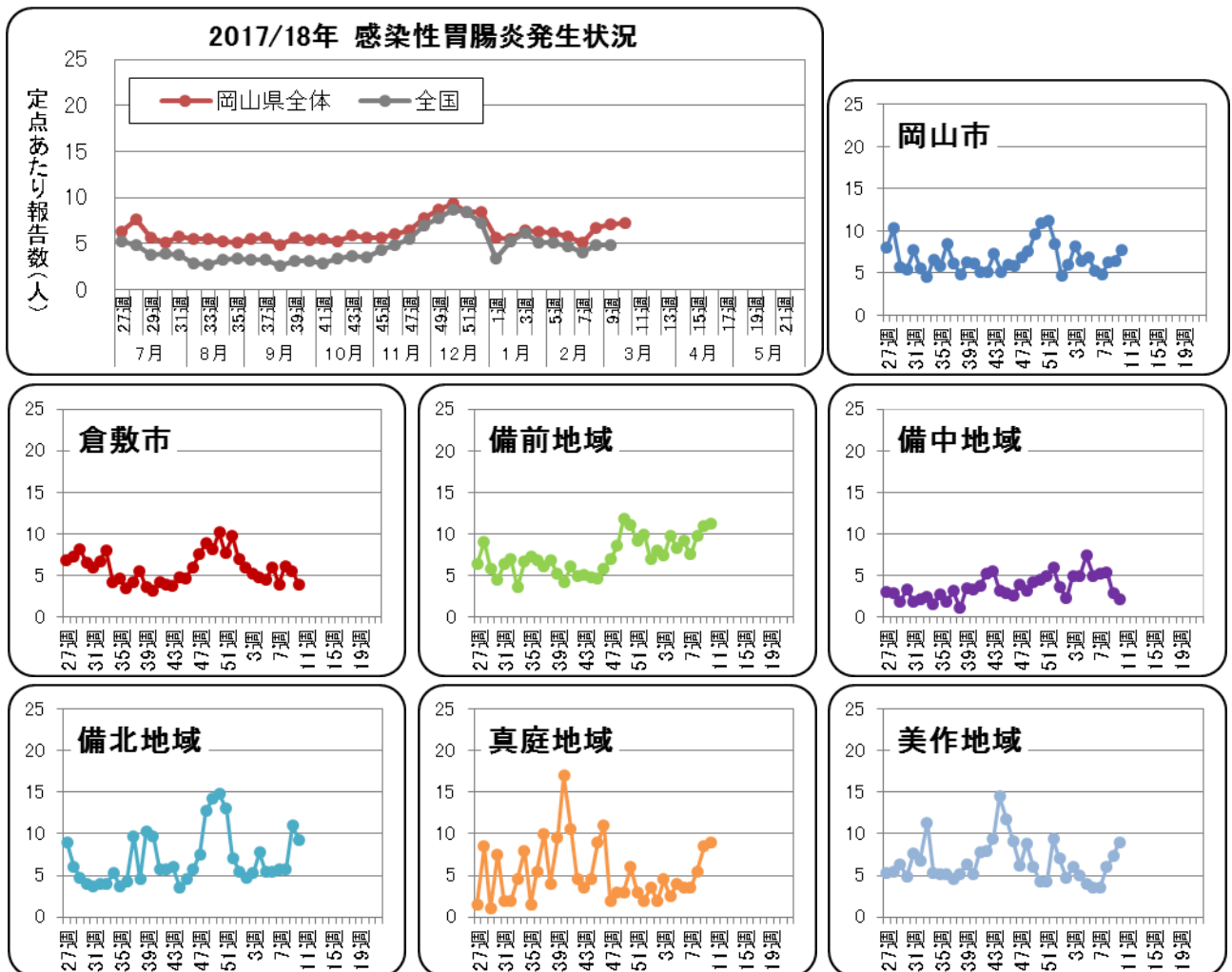


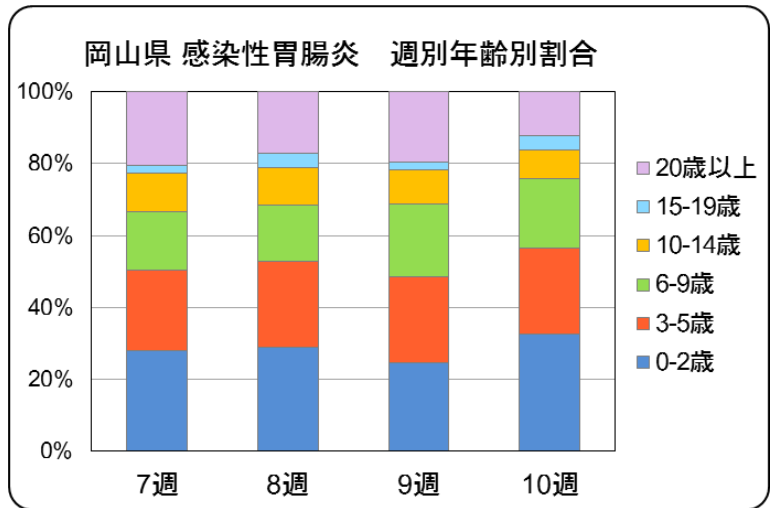
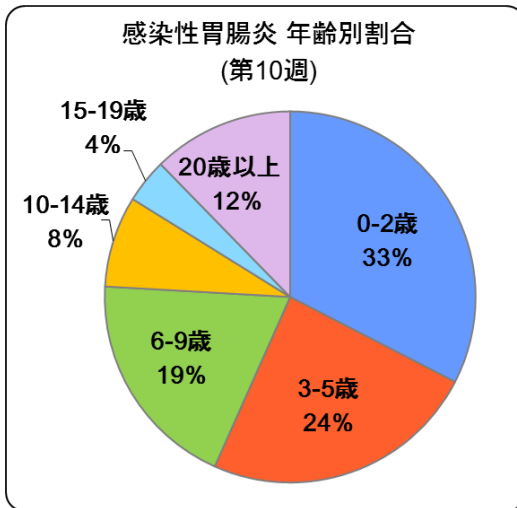
※ 感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で390名(定点あたり7.15→7.22人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域(11.30人)、備北地域(9.25人)、真庭地域・美作地域(各9.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





第10周年齢別割合では、0-2歳 33%、3-5歳 24%、6-9歳 19%の順で高くなっています。

例年3~5月には、2歳以下の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。

拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯または次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水が利用可能である洗濯機があれば熱水洗濯、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、**中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)**

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

[○ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス食中毒予防のための適切な手洗い \(動画\) \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2018年 10週(定点把握)

(2018/03/05～2018/03/11)

2018年3月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1165	13.87	246	11.18	326	20.38	169	11.27	155	12.92	62	10.33	37	12.33	170	17.00
RSウイルス感染症	8	0.15	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	3	0.50
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	124	2.30	45	3.21	48	4.36	12	1.20	11	1.57	-	-	4	2.00	4	0.67
感染性胃腸炎	390	7.22	109	7.79	44	4.00	113	11.30	15	2.14	37	9.25	18	9.00	54	9.00
水痘	16	0.30	11	0.79	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	9	0.64	1	0.09	3	0.30	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 10週(発生レベル設定疾患) (2018/03/05~2018/03/11)

2018年3月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1165	13.87	246	11.18	326	20.38	169	11.27	155	12.92	62	10.33	37	12.33	170	17.00
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	124	2.30	45	3.21	48	4.36	12	1.20	11	1.57	-	-	4	2.00	4	0.67
感染性胃腸炎	390	7.22	109	7.79	44	4.00	113	11.30	15	2.14	37	9.25	18	9.00	54	9.00
水痘	16	0.30	11	0.79	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第10週 2018/03/05～2018/03/11)

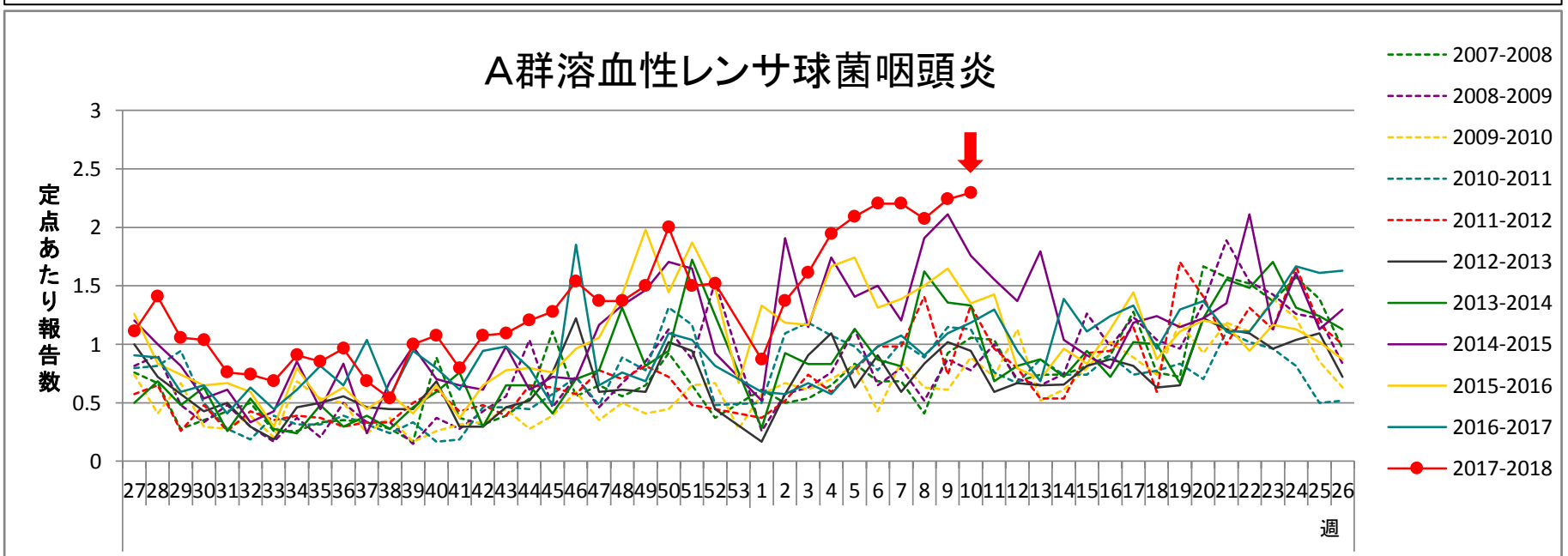
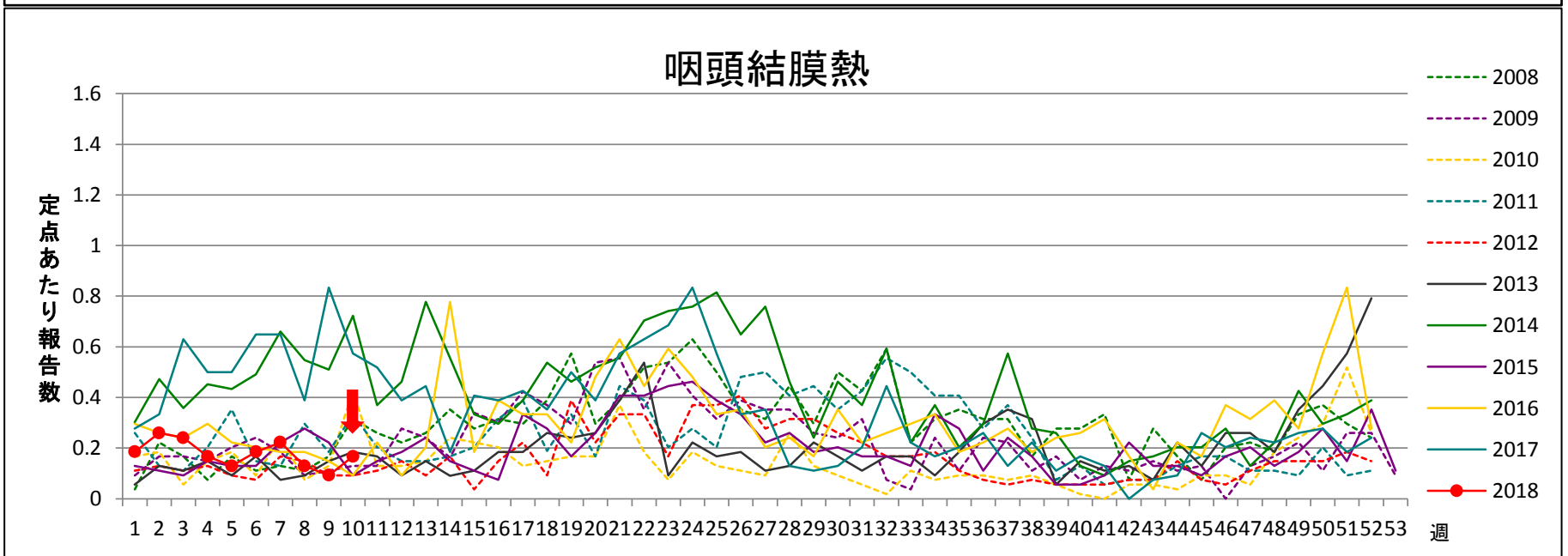
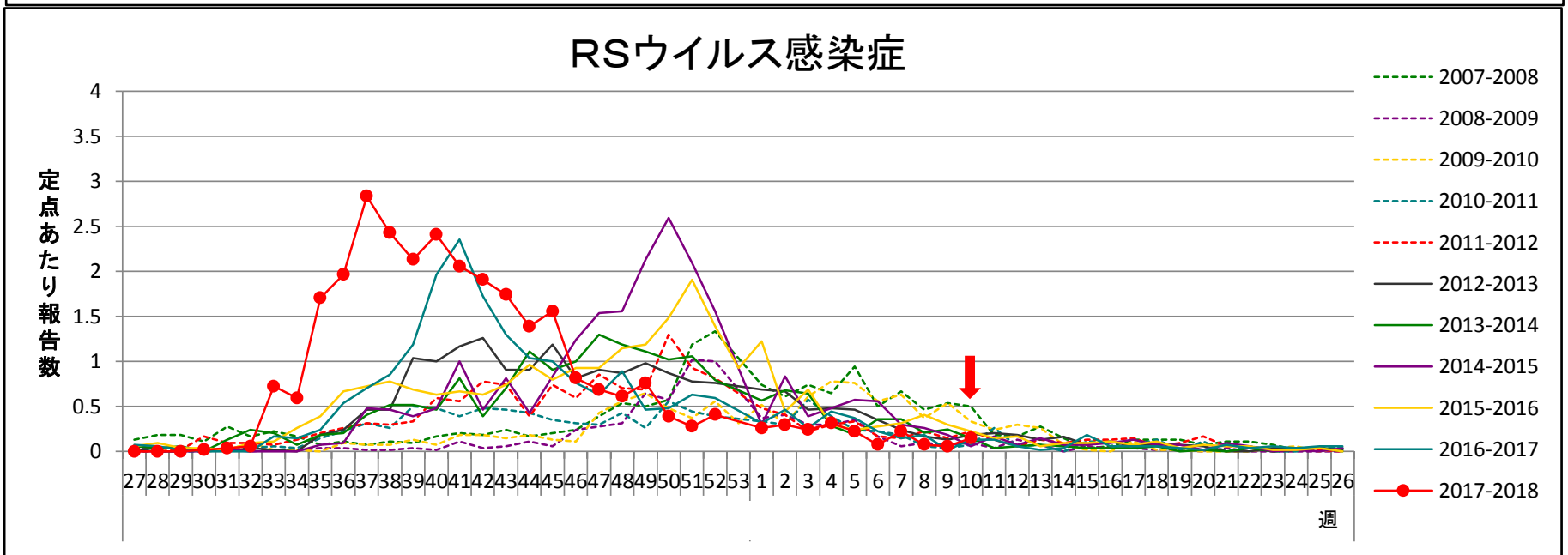
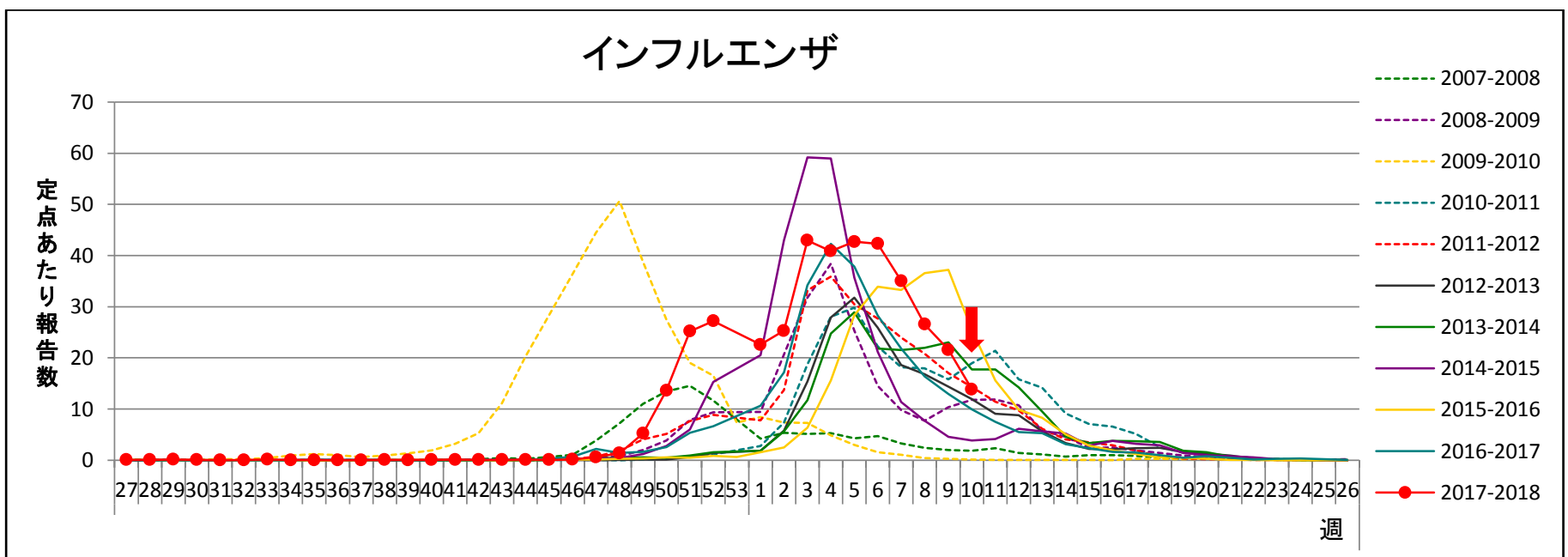
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1165	2	14	47	43	61	60	73	65	53	60	39	138	55	53	79	74	63	78	54	54

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	8	3	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	9	-	1	3	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	124	-	-	4	9	12	12	15	16	15	10	6	14	1	10
感染性胃腸炎	390	6	19	54	48	26	43	25	20	26	12	17	31	15	48
水痘	16	-	-	3	-	-	1	1	3	-	4	3	1	-	-
手足口病	4	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	-	4	8	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-

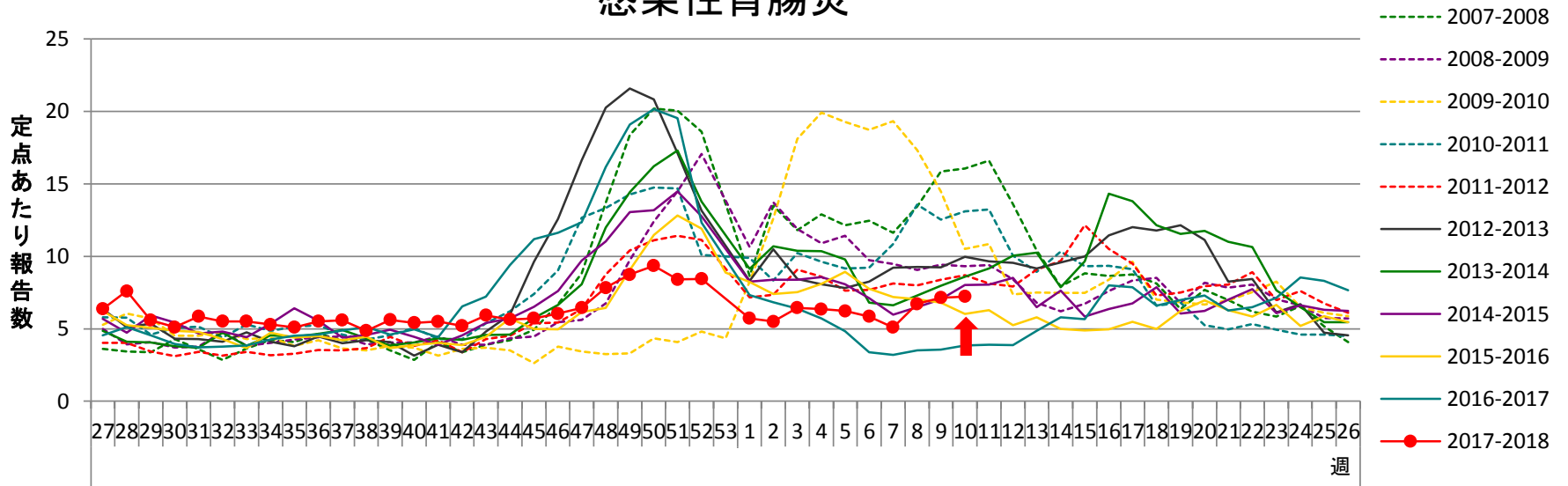
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

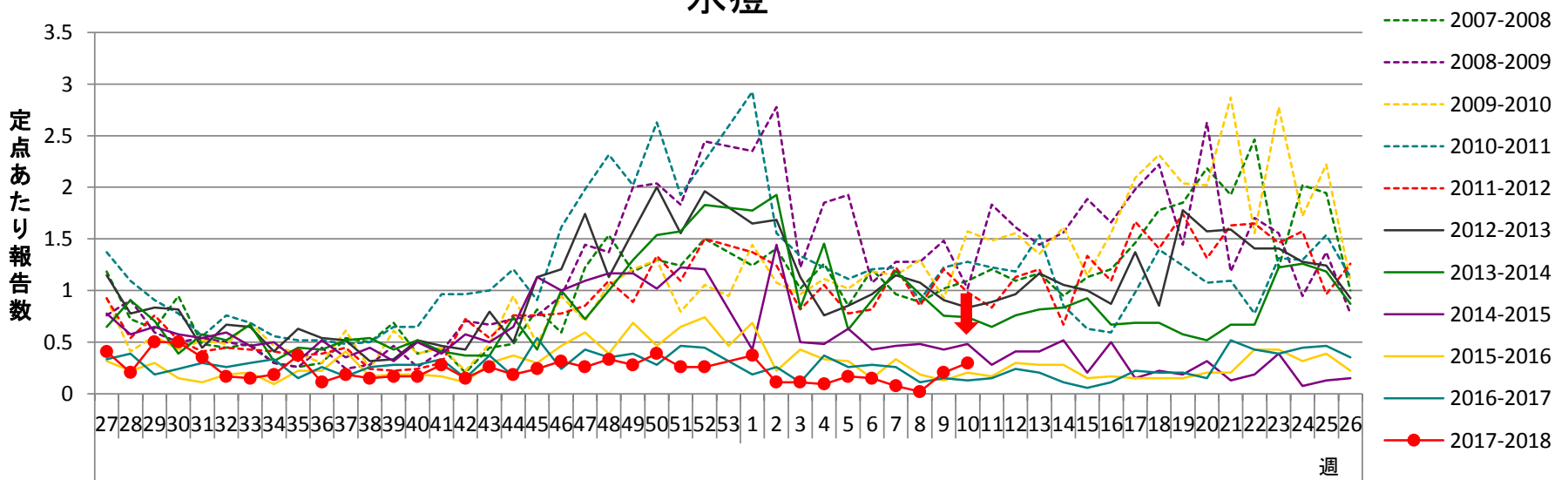
(- : 0)



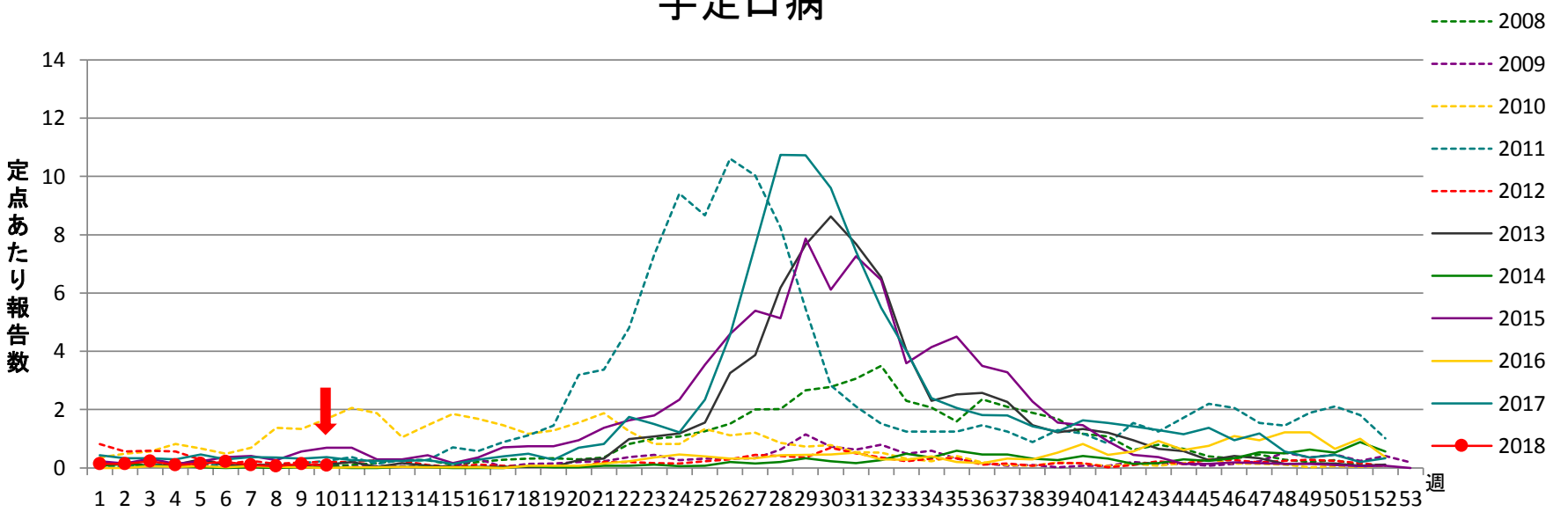
感染性胃腸炎



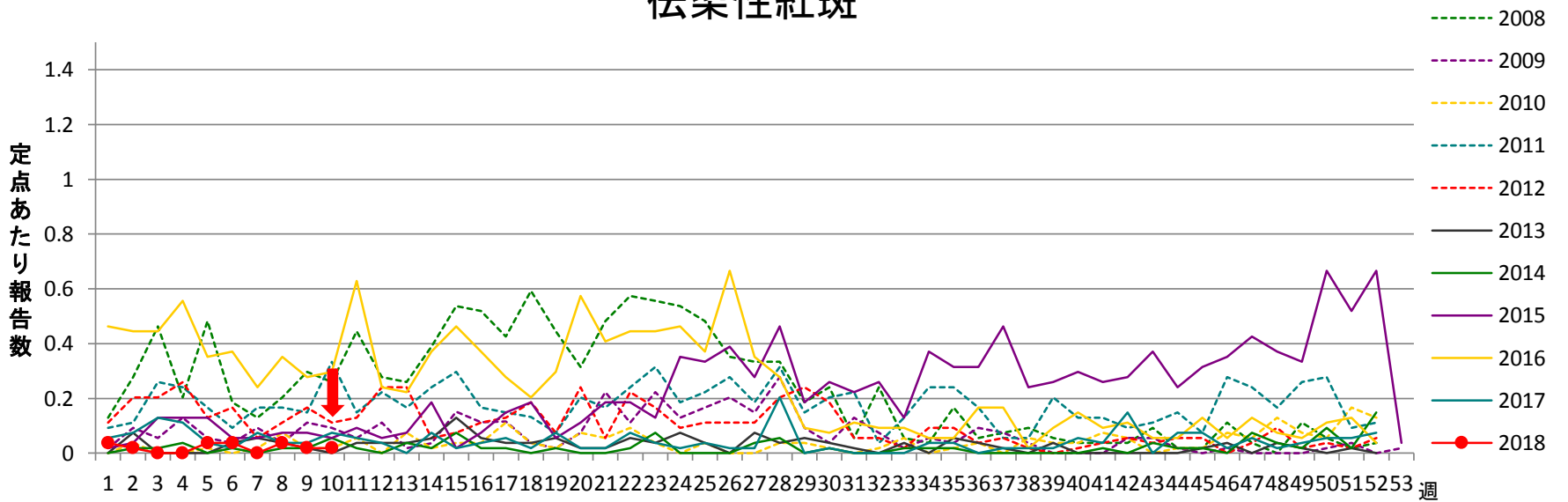
水痘



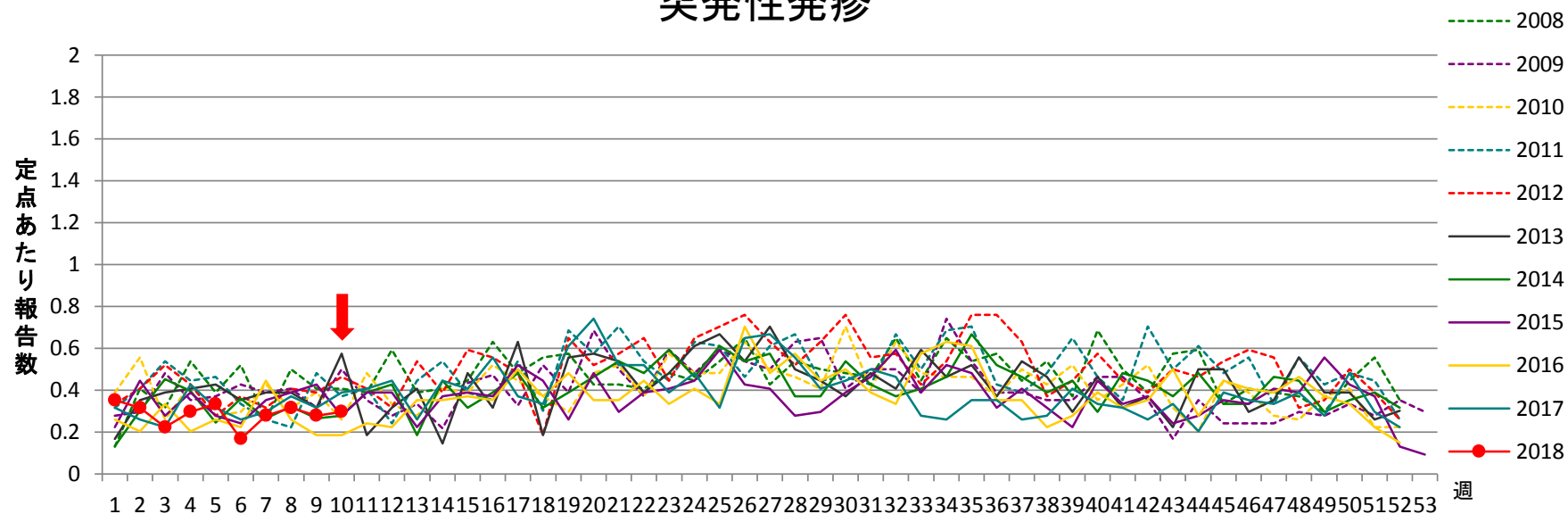
手足口病



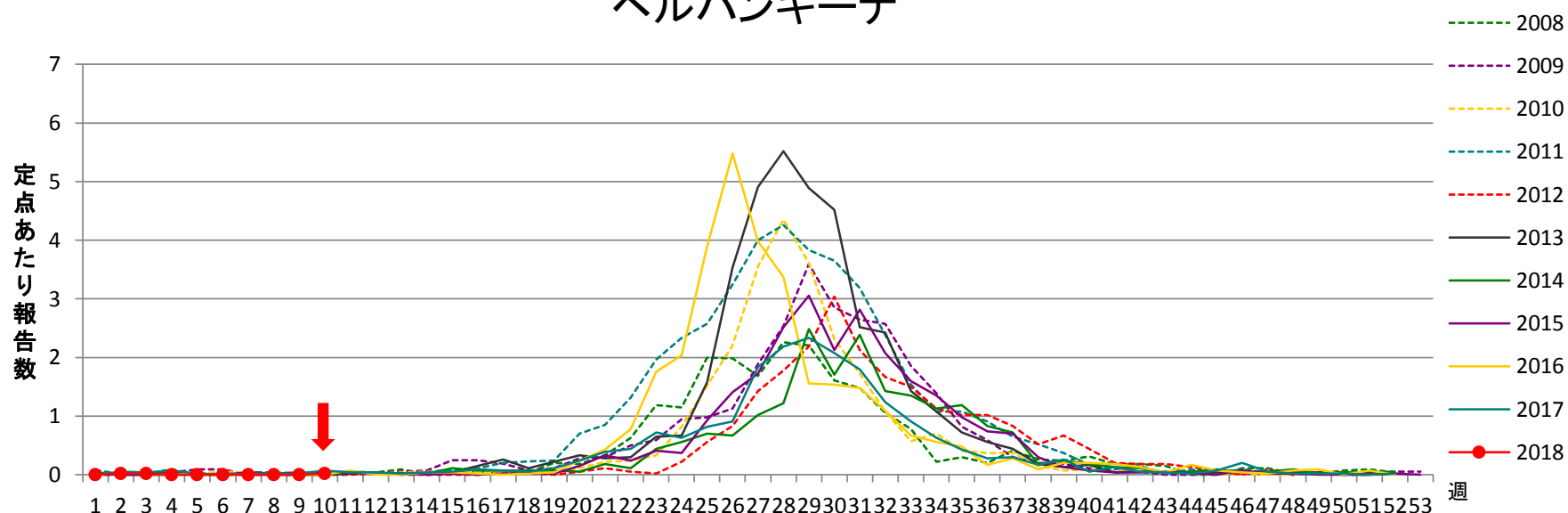
伝染性紅斑



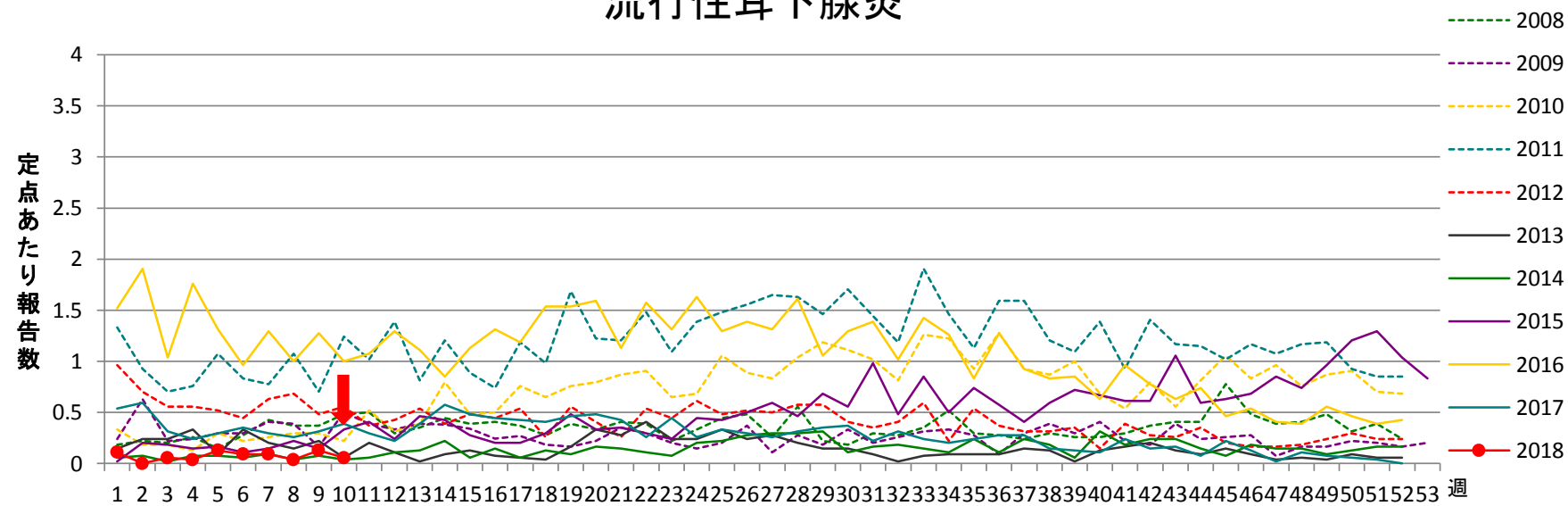
突発性発疹



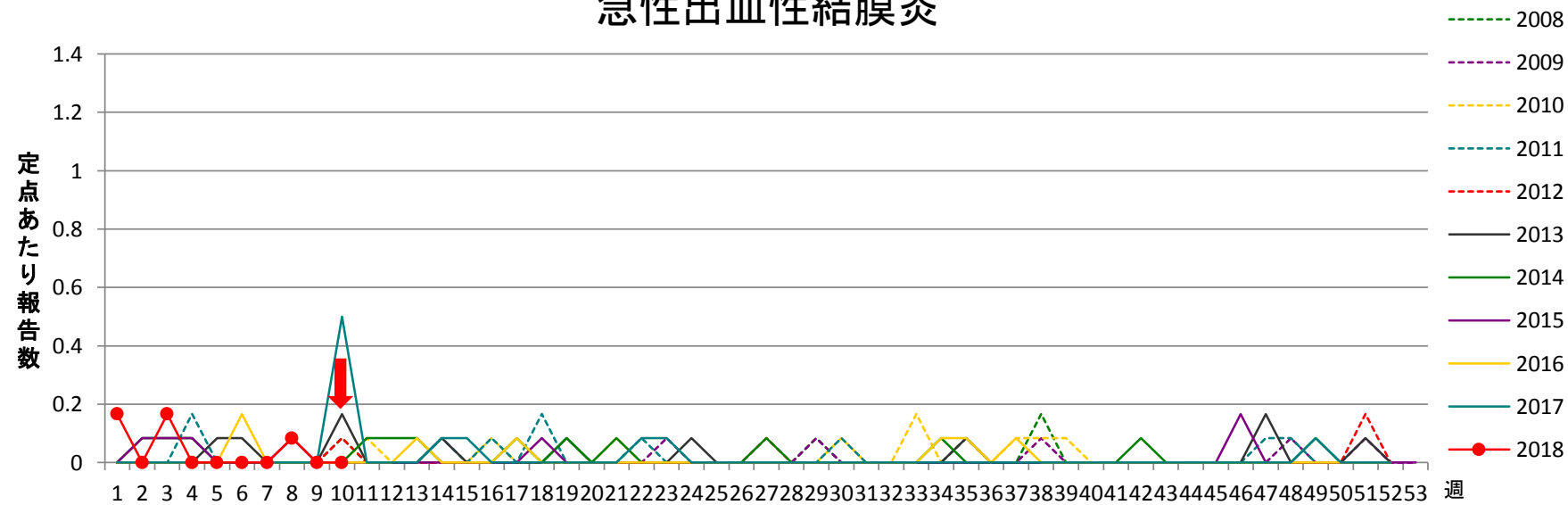
ヘルパンギーナ



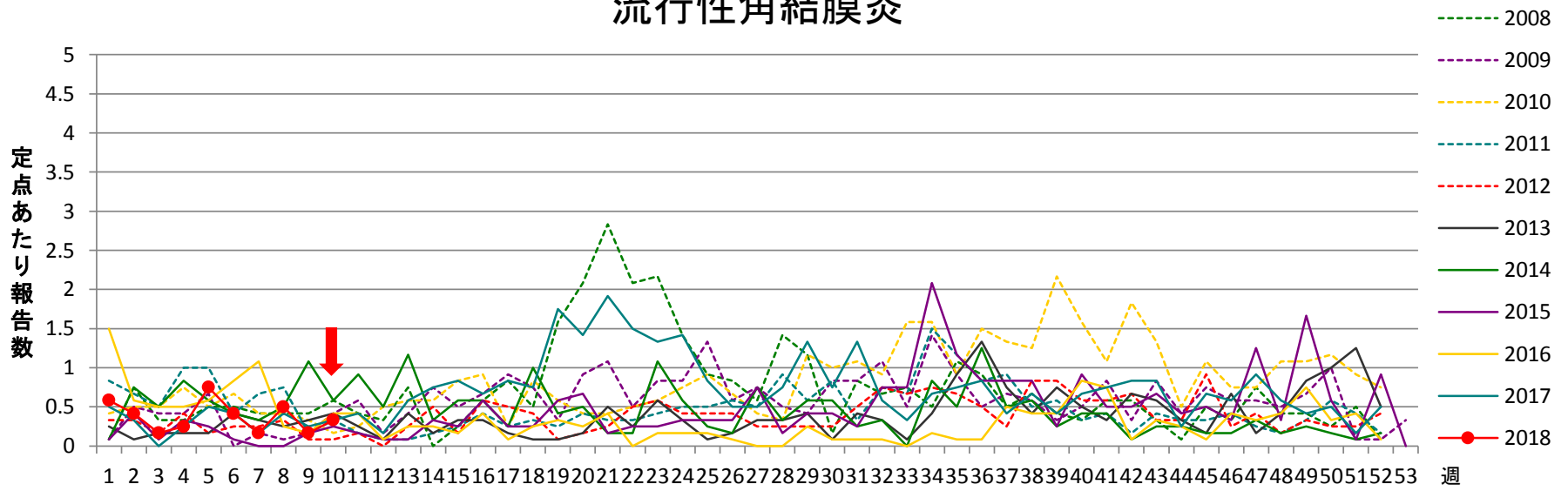
流行性耳下腺炎



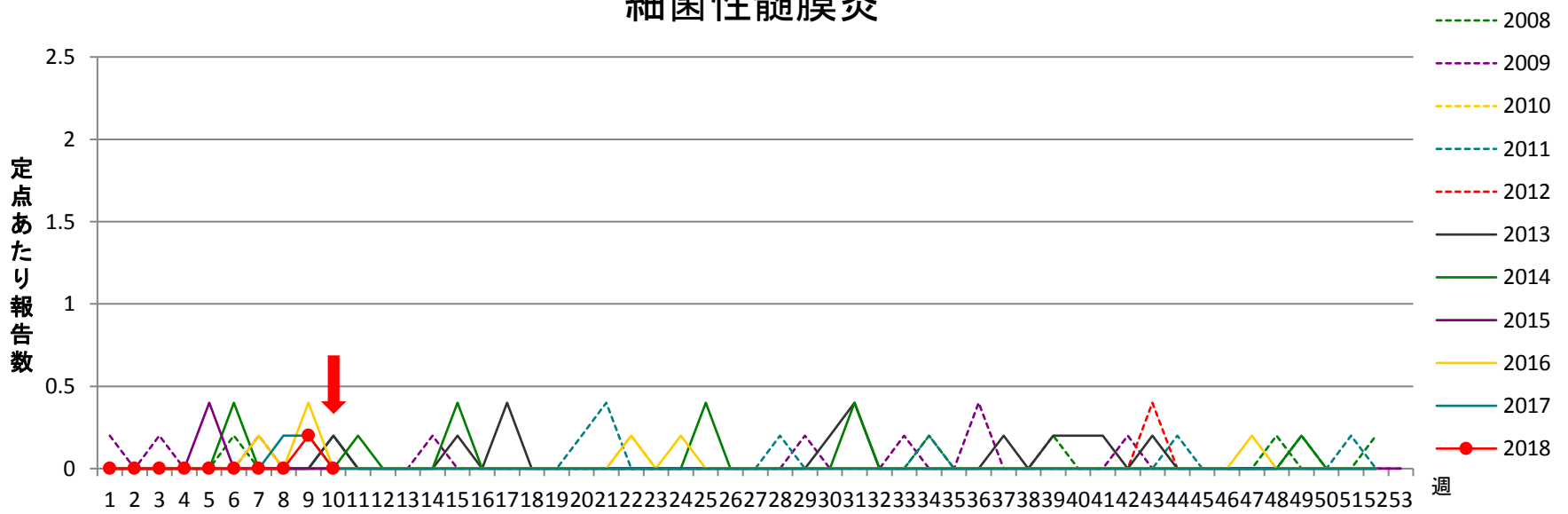
急性出血性結膜炎



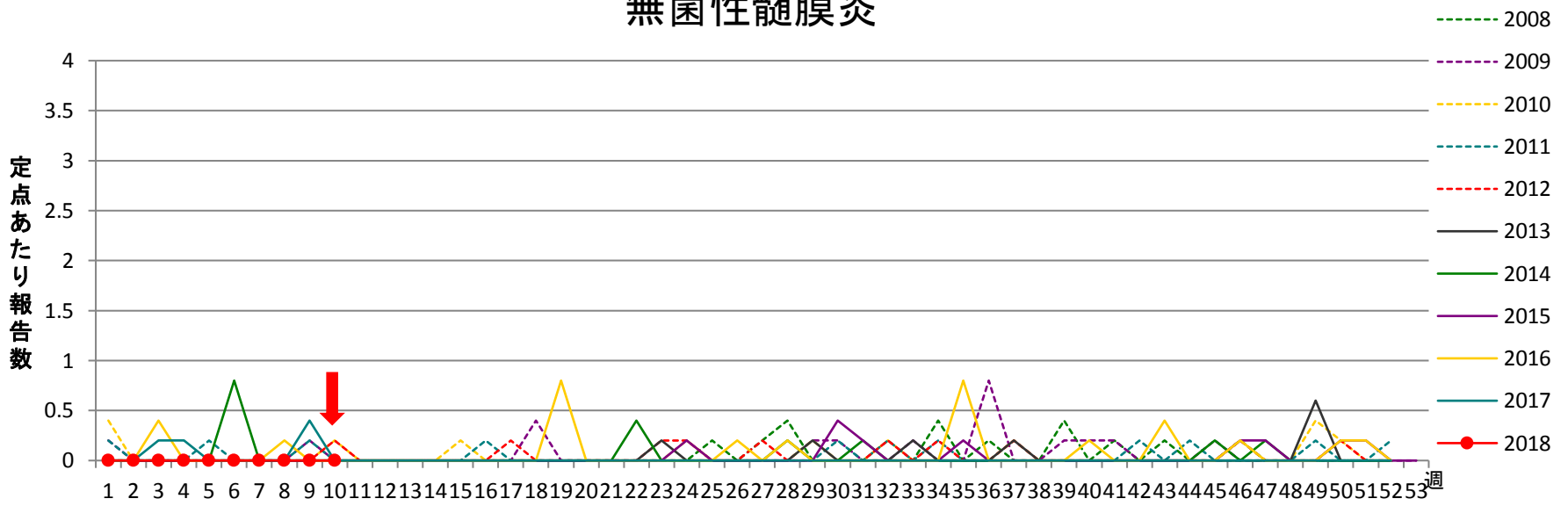
流行性角結膜炎



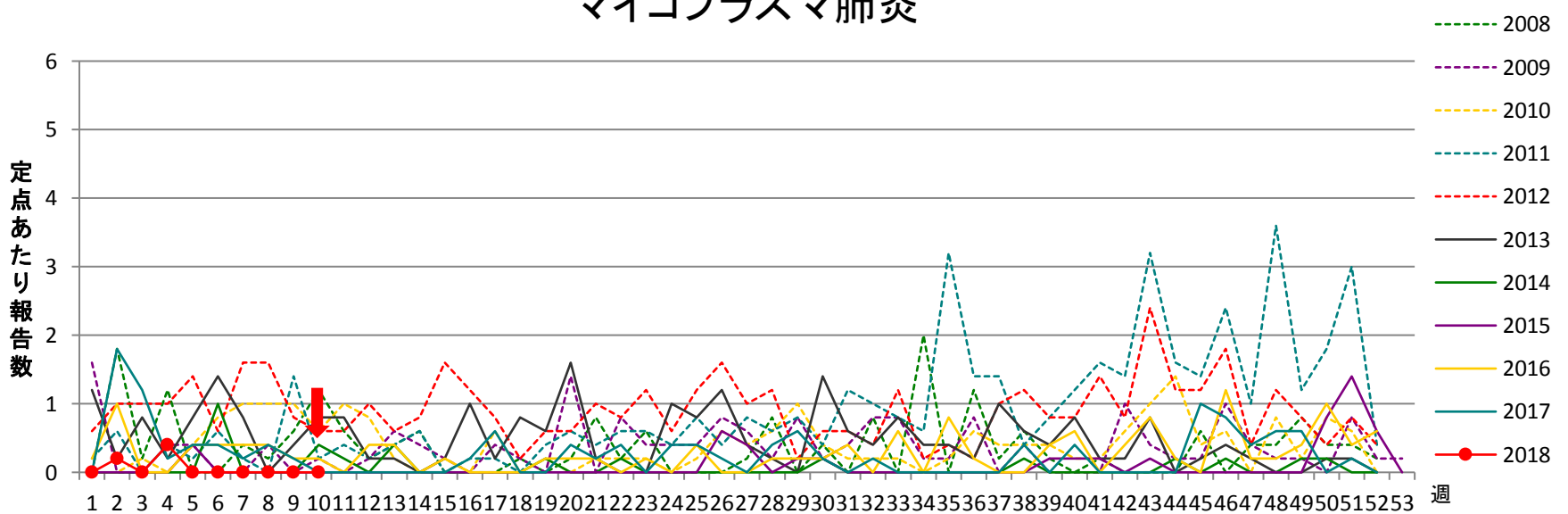
細菌性髄膜炎



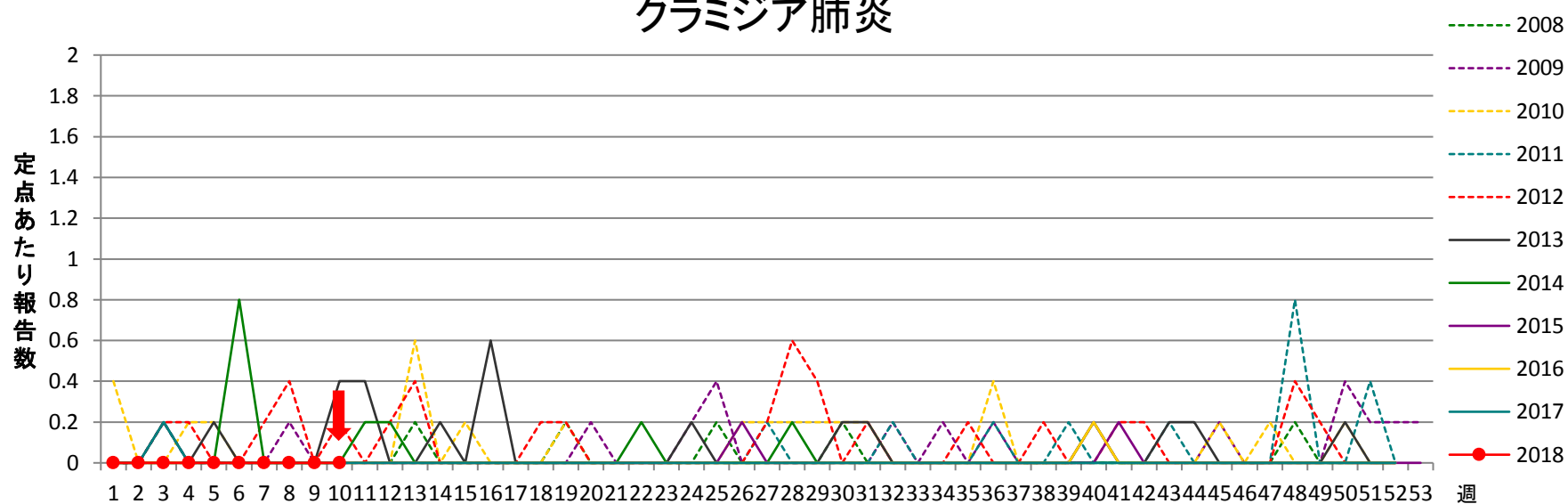
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

